

令和5年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立本町小学校

●全国学力学習状況調査（小学校第6学年・中学校第3学年）

課題が見られた問題の概要		正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	1一 米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する。	64.00%	○「読むこと」の正答率が高い。特に、2四の問題の正答率は72%と、都(56.8%)や全国(56.2%)平均を大きく上回っている。資料を読んで分かったことをまとめ、分かったことをもとに自分ができそうなことを書くことができている。また、無解答が少ない(2%)ことも成果と言える。資料を正確に読み、意見をまとめる力がついていると考えられる。	●「書くこと」に関する(1二)の問題の正答率は28.0%であり、全国平均は超えたものの、都平均(28.9%)より低い結果となった。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる問題だが、「資料から読み取ったことを入れる」という条件が3つ、「60文字以上100文字以内」という条件が1つ、計4つの条件を意識して要約する必要があるため、いずれかを落としてしまう児童が多数見受けられた。無回答も10.0%おり、全く回答できなかった児童もいる。これらのことから、児童に「条件を意識して書く」という学習に意図的に取り組ませ、経験させることが大切になってくると考える。また、今回のような形式の問題に不慣れなことも、正答率が著しく低かった要因と考えられるため、類似の問題に取り組むことも効果的と考えられる。
	1二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。	28.00%	○「話すこと・聞くこと」(3一、二)の正答率が高い。(3一)は、インタビューの様子を読んで、質問した理由を選択肢から選ぶ問題で、正答率は88.0%。(3二)は、インタビュー内容を取り挙げた上で、話し手になり切って文章を書く問題で、正答率は86.0%であった。本校では、校内研究を中心に、全学年で日頃から対話を意識した授業を展開することを意識しているため、その成果が出ていると考えられる。	
	2三 相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。	64.00%	●「情報の扱い方に関する事項」にあたる(2三)の正答率が64.0%と低かった。資料に書かれた情報の中から、必要な情報を正確に得ることが難しいと考えられる。これらは、情報リテラシーにも繋がる力であり、今後より重要になってくる。各教科で調べ学習を行う際には、「何のために、何を、どのようにして」調べるのかを意識させていきたい。	
算数・数学	2(3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く。	28.00%	○「C変化と関係」領域の問題1(1)、1(2)の正答率が高かった。1(1)は伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかをみる問題で、正答率は98.0%。1(2)は伴って変わる2つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかをみる問題で、正答率は96.0%であった。数量の変化や、それに伴って変化する数との関係性については、低学年から算数的活動を取り入れてきたことや、中学年以降の習熟度別学習の成果が表れたものと考えられる。	●「図形」領域の正答率が低い。2(3)の正三角形の意味や性質について理解しているかを問う問題の正答率は28.0%であった。図形を頭の中で折って、切って、重ねて…というイメージを正確にもつことが難しい児童が多数いると考えられた。また、2(4)の高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかを問う問題の正答率は30.0%であった。三角形の面積の公式は理解しているが、2本の平行な直線の間を高さとする場合、高さは同じであることを公式に活用して考えることができなかった児童が多かった。低学年から、具体物を使用して学習を積み重ねる必要があると考えられる。
	2(4) テープを直線で切ってきた2つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。	30.00%	○3(1)の正答率も82.0%と、都の平均値(73.4)を大きく上回った。()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができている児童が多い。四則計算のきまりが定着するよう、各学年で既習事項を繰り返し指導してきた成果と考えられる。	
	3(4) 66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。	50.00%	○学力向上の取組を継続してきたことが、算数の各領域で身に付けるべき能力の習得に有効に働いた結果、どの問題でも都平均を上回るか、下回っても数%に収まった	
			●3(4)の(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えられるかをみる問題の正答率は50.0%であった。普段から、途中式を省略して誤答扱いとなっていたり、文章問題に出てきていない数字を補足なく使って間違ったりすることが多くある。これらを防ぐためには、考え方を式や言葉で書き表すことを日常化したり、文章問題に出てきていない数字などは、必ず式や言葉で捕捉したりするなど、ノート指導が大切になると考える。考えを正しく表出できているか適宜確認する必要がある。	